

令和6年度
11月号

幼稚園だより



令和6年10月31日
文京区立湯島幼稚園

「体験の中で感じること」

園長 前田 宏子

今年も園庭の畑にはサツマイモの葉が茂り、秋の深まりとともに、苗を植えたゆり組は楽しみに芋掘りを行いました。たくさんの葉が茂ってはいましたが、いざ、畑を掘り起こしサツマイモが出てくるまでひたすらに掘り続けましたが、4つの小さなお芋が出てきただけでした。自然は厳しいものです。子どもたちは残念な気持ちをもちましたが、サツマイモの蔓はいっぱいありましたので、それを使ってリースを作ることにしたそうです。サツマイモをいっぱい作ることができる農家の人すごいね、という話も出ました。幼児期は直接体験を大事にしています。特に自然に触れる体験は幼稚園で大事にしていることの一つです。楽しい体験もありますが、楽しさだけでは終わらないこともあります。それらをすべて合わせて直接体験と考えます。うまくいかなかった後には「どうしてだろう」と考えることが必要です。自分たちでやってみたからこそ感じる思いを大切にしていきたいと思います。

また、先日は4,5歳児があらかわ遊園の遠足に電車を乗り継いで行ってきました。日頃電車に乗る機会が少ないという保護者の方からのお話もありましたが、子どもたちはワクワクがいっぱいの様子でした。電車の中でしっかりと手すりにつかまり、足を踏ん張って立っていました。事前に各学級で公共交通機関でのマナーについては話をしていましたので、湯島の子もたちは大きな声で話をする子も騒ぐ子もいませんでした。公共の場でのマナーは子どもも大人も関係なく守るべきことがあります。それはその場にいる人が気持ちよく過ごせるための知恵ともいえます。子どもも社会の一員です。そのことに気付かせ、その場にふさわしい振る舞いを伝えていくことが必要です。帰りの電車ではAくんが手すりにつかまり、ちょっと遠くのほうをじっと見ていました。何を見ているのかなぁと思ったその視線の先に、一人の女性が一心不乱にお化粧をしていました。たぶんAくんの視線には気付いていなかったと思います。一時期、メディアで電車の中での化粧の是非についてにぎわっていたことがあります。Aくんはこの姿をどのように捉えたのでしょうか。オーストラリアの研究ではきちんとしつける育児スタイルをもつことは非認知能力を高めることにつながると証明されています。

生活には面白いことも楽しいこともちょっと辛いことも、そして立ち止まって考えさせられることもあります。このような毎日を大切に過ごしていきたいと思います。